

野村IR合同個人投資家セミナー
会社説明資料

加賀電子株式会社 <東証プライム市場：8154>

取締役 上席執行役員
管理本部長 **石原 康広**

2025年9月17日

目次

- 会社プロフィール P- 3 ~ 10
 - 電子部品事業について P-12 ~ 14
 - EMS事業について P-16 ~ 22
 - 中期経営計画 2027 P-24 ~ 33
 - 2026年3月期 第1四半期決算概要、
業績予想、為替レート P-35 ~ 49
- <参考>
- 直近5年の業績トレンド、中計セグメント別業績 P-51 ~ 53

会社プロフィール

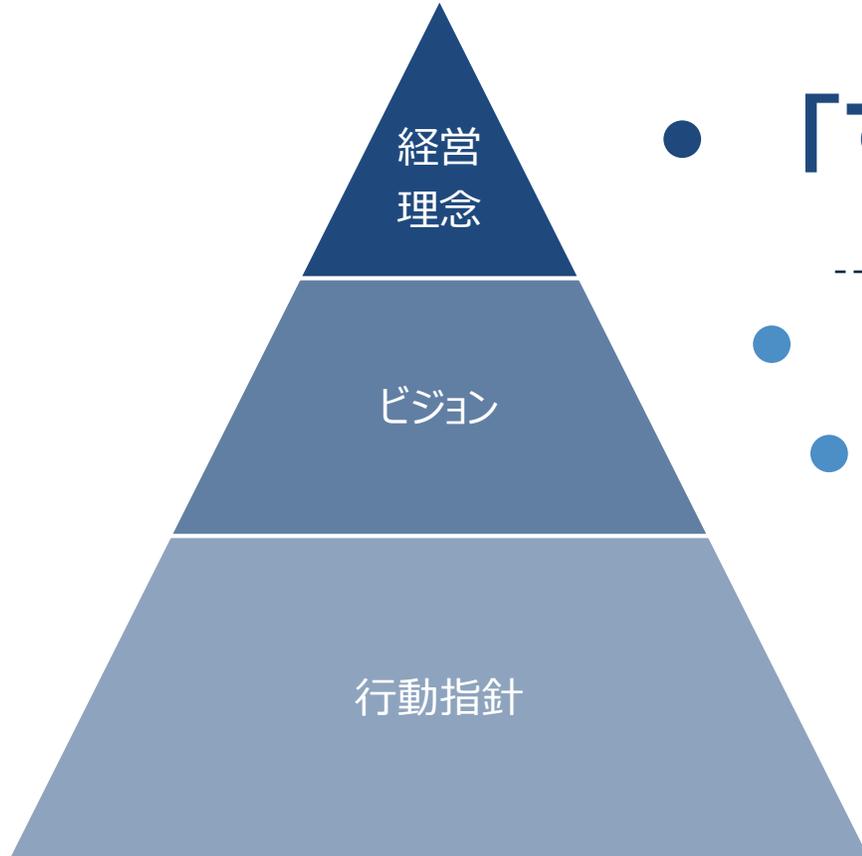
独立系、ワンストップサービスのエレクトロニクス総合商社

- 会社名 加賀電子株式会社
- 代表者 代表取締役 会長執行役員 塚本 勲
代表取締役 社長執行役員 門 良一
- 本社所在地 東京都千代田区神田松永町20番地
- 設立 1968年（昭和43年）9月12日
- 資本金 121億33百万円
- 上場市場 東証 プライム市場（証券コード：8154）
- グループ会社数 73社（2025年9月1日現在）
- 連結従業員数 8,560名（2025年3月31日現在）



創業者・
代表取締役 会長執行役員 塚本 勲
代表取締役 社長執行役員 門 良一

「すべてはお客様のために」—加賀電子は創業以来、お客様の声をとことん聞き、お客様のご要望にひたすら応えていくことで、電子部品や半導体のキットから加工・製造へと展開したEMSビジネス、そして完成品の販売を行う情報機器ビジネスへと事業領域を拡大してきました。これからも、「我が国業界No.1の企業」そして「グローバル競争に勝ち残る企業」を目指し、果敢に挑戦し続けてまいります。



● 「すべてはお客様のために」

● 「我が国業界No.1企業を目指す」

● 「グローバル競争に勝ち残る企業を目指す」

● 「F.Y.T.」 : 変化に柔軟に、常に若々しく、果敢に挑戦

● 「3G」 : あらゆるものを、グローバルに、総合力を活かして

● 「加賀イズム」 : 経営マインド、営業マインド、社会人としての心構え

会社設立以来、創業者や諸先輩の経験に裏打ちされた宝とも言うべき数多くの『語録』
日々の競争を勝ち抜いていくための我々の行動の『拠り所』として、将来にわたって継承されるDNA

加賀イズムの3本柱		基本精神
1. 経営マインド	「全員が経営者」であるという意識をもった行動	1-1. 壮大な夢と強い想いをもった経営者たれ
		1-2. ハングリー精神をもってチャレンジし続ける
		1-3. 強い想いをもって、まずは行動
2. 営業マインド	「商社マン・ビジネスマン」としてもつべき意識と行動	2-1. TAXAN努力し、TAXAN儲けてTAXAN幸せになる
		2-2. 人脈は無形の財産
		2-3. 常に、旺盛な好奇心を持ち続ける
3. 社会人としての心構え	社会人として仕事を進める上での意識と行動	3-1. 自己研鑽
		3-2. 信賞必罰
		3-3. 公明正大

成長を続ける加賀電子の推進力は、時代の変化をいち早く察知する鋭敏な能力です。その力は、技術革新が加速する時代において、エレクトロニクス分野で着実な成長を遂げてきました。長年にわたって培ってきた情報収集力と販売網をベースに、既存の事業にとらわれない自由な発想により、無限の可能性に向かって進化を続けています。



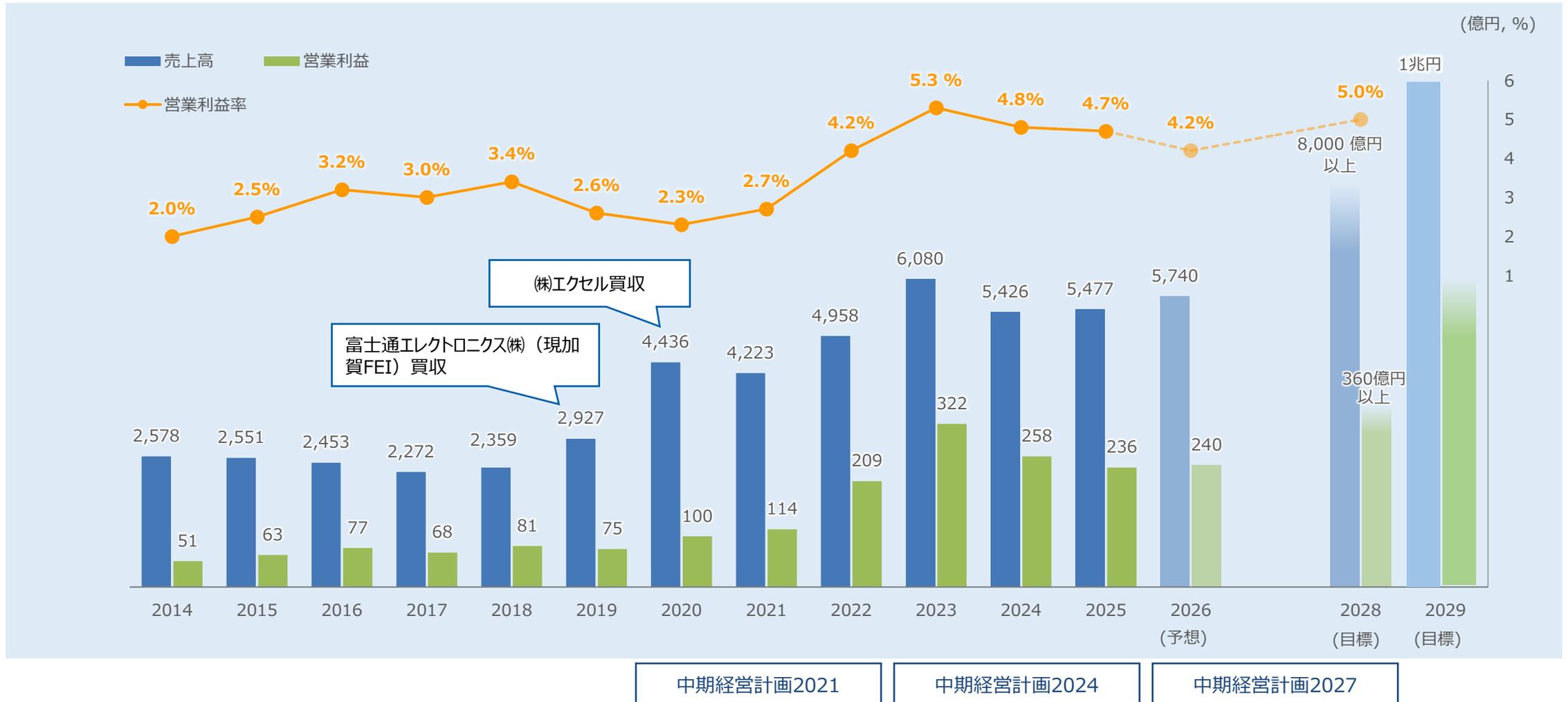
資本金100万円で 東京都千代田区外神田に設立 1968	インバーターゲーム ブーム到来 1978	アップル用自社ブランドモニター 「KG-12」を発売 1981	家庭用ゲーム事業を 開始 1983	自社工場 港加賀電子を 中国（深圳）に設立 1999	KAGA (THAILAND) を タイに設立 2002	TAXAN メキシコ 2016
CB トランシーバー ブーム到来 1973	TAXAN USA を アメリカに設立 1981	自社ブランドカラーモニター 「TAXAN RGB VISION」を発売 1983	KAGA (H.K.) を 香港に設立 1992	KAGA COMPONENTS (MALAYSIA) をマレーシアに設立 2000	KD TEC を チェコに設立 2009	加賀FEI(旧・富士通 エレクトロニクス) を子会社化 2019

2026を修正

売上高 1兆円突破を目指して 2029

直近12年の業績推移

2014年以降、「利益重視の経営」をグループに徹底し、営業利益および営業利益率を改善。2019年からはM&Aを積極展開し、成長路線へシフト。持続的な収益拡大を目指します。



電子部品・半導体ビジネス



国内外のお客様へ、一般電子部品・半導体等の販売代理店活動

EMSビジネス



完成品から半完成品まで設計開発製造のトータルサポートを実施

情報機器ビジネス



PCや周辺機器を国内外の流通チャネルに供給、及びネットワークソリューション分野への対応

ニュービジネス



アミューズメントに関する製品・ソフト開発及び製造販売およびゴルフ用品販売事業ほか

売上構成比



18ヶ国/136拠点に展開するグローバルネットワークで、顧客ニーズに迅速且つ柔軟に対応します。

欧州

- 製造：チェコ、トルコ
- 営業：ドイツ、オーストリア

中国

- 製造：深圳、上海、蘇州、湖北
- 営業：香港、上海、大連

日本

- 製造：十和田、山形、福島、東京、鳥取
- 営業：東京、名古屋、大阪、福岡、仙台など

米州

- 製造：メキシコ
- 営業：サンノゼ、シカゴ、ボストン、ロサンゼルス

ドイツ
チェコ
オーストリア
トルコ

湖北
大連
韓国
上海
台湾
香港
蘇州
タイ
ベトナム
マレーシア
インドネシア
インド
シンガポール

サンノゼ
シカゴ
ボストン
ロサンゼルス
メキシコ

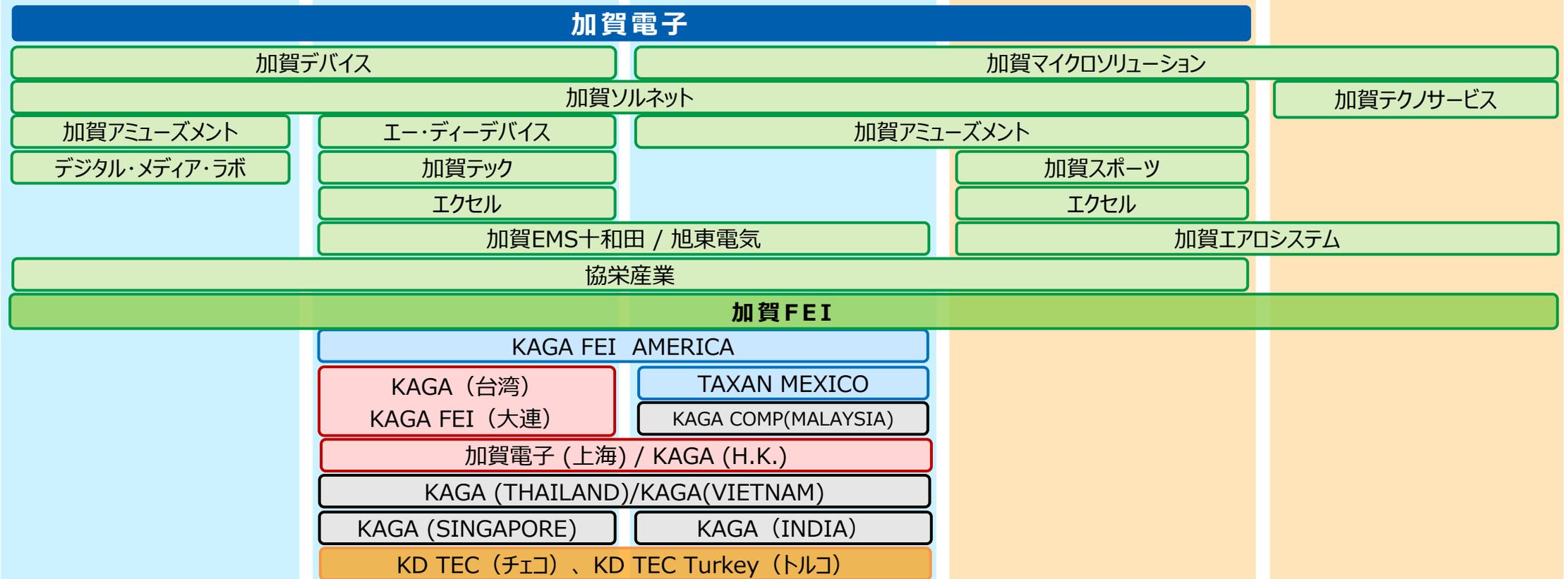
アジア・アセアン

- 製造：タイ、マレーシア、インドネシア、ベトナム、インド
- 営業：韓国、台湾、香港、シンガポール、タイ、インド

● 営業拠点 ● 製造拠点

加賀電子グループの強み-③：ワンストップ

製造受託に留まらず、企画・開発から販売・販売後サポートまでワンストップで対応します。

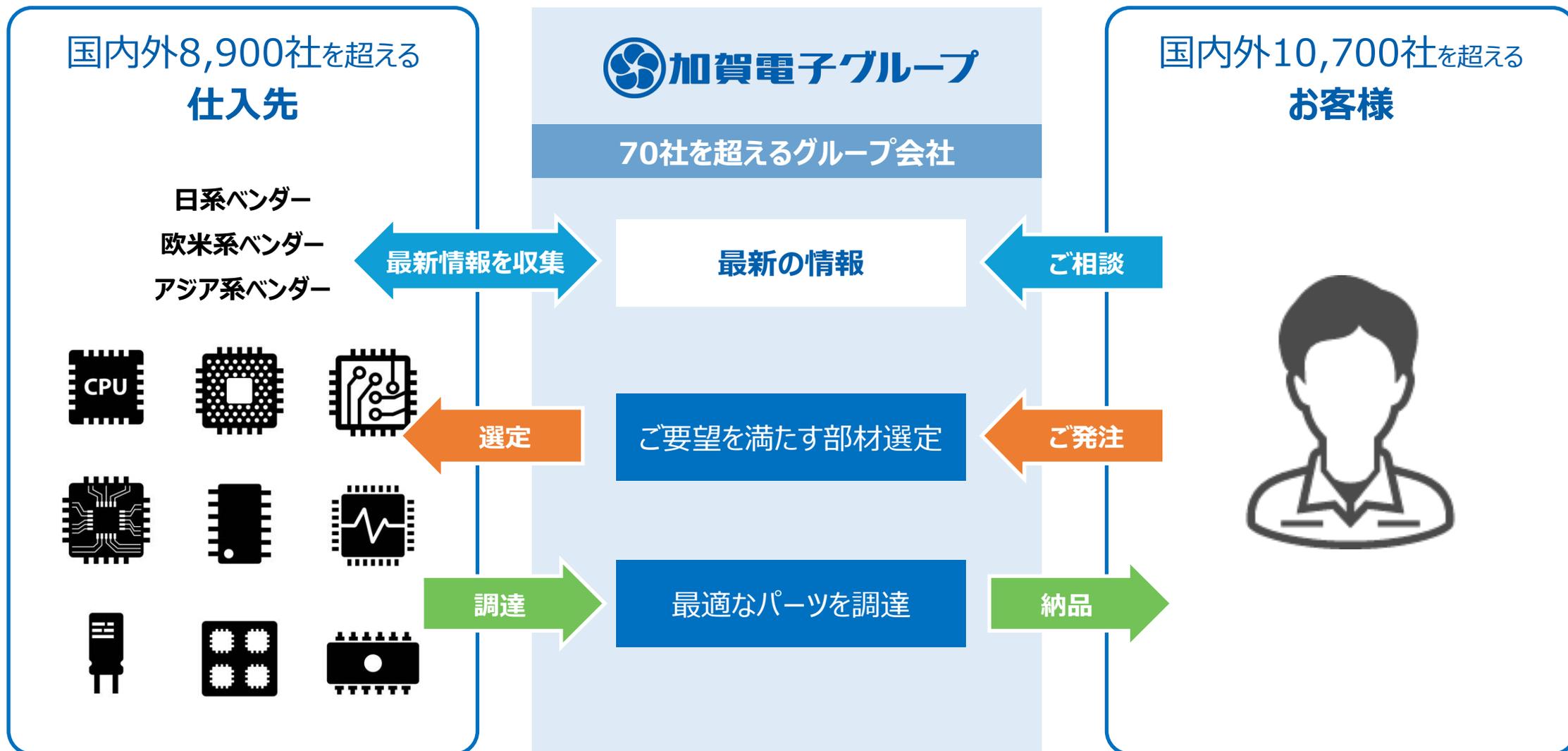


電子部品事業について

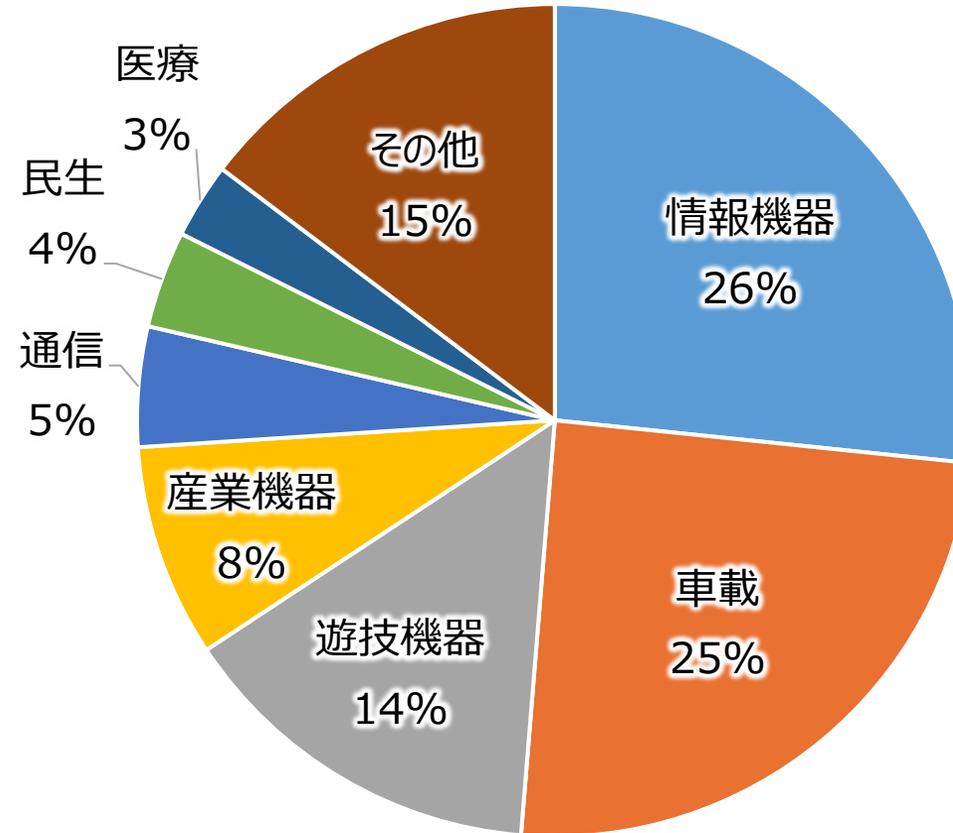
どのメーカーにも属さない「独立性」、世界中に展開する「グローバル性」、技術者チームの「専門性」が強みです。

<p>独立系の アドバンテージ</p>	<p>独立系商社だからできる調達力、 50年培った信頼とノウハウ</p>	<ul style="list-style-type: none">• 加賀電子の仕入先は国内外8,900社、お客様は10,700社を超え、直接取引しています• 取り扱い商材に制限がない独立系商社の強みを活かし、世界中の仕入先とお客様を結びつけ、最良の品を最適な形で提供します
<p>グローバル ネットワーク力</p>	<p>時代を先読みする情報収集力、 多彩な領域のグループ力を駆使</p>	<ul style="list-style-type: none">• 北米、欧州、アジアなど、世界各地に60社を超えるグループ会社のネットワークを活かし、最新の知見、情報もいち早く収集し、お届けします• 現地法人によるサポート体制も万全。ご希望の地域でご要望にお応えします
<p>テクニカルサポート 体制</p>	<p>経験豊富な技術者チームに任せる、 信頼から生まれる万全の体制</p>	<ul style="list-style-type: none">• 最新技術に精通したFAE（フィールドアプリケーションエンジニア）が、実績に裏打ちされた信頼とともに最適な製品をご提供します• 情報の少ない最先端のベンチャー商品も徹底した技術サポートで安心してご利用いただけます

グループネットワークを活用した最先端の情報網・部材調達体制で、お客様に最適な解決策をお届けします。



売上高：3,477億円



2025年3月期

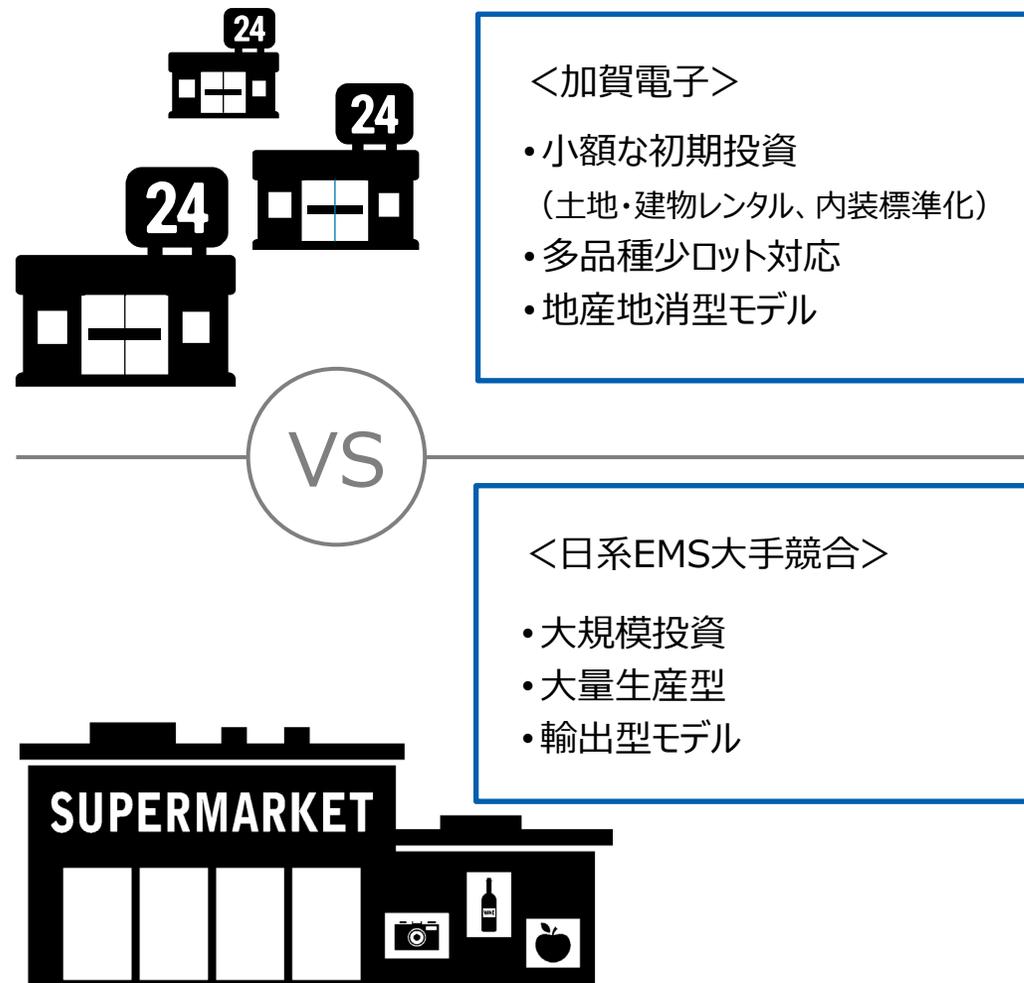
EMS事業について

加賀電子はお客様にとって便利で価値ある「コンビニ型EMS」をグローバルに展開しています。

日系EMS vs 台湾・アジア系EMS



コンビニ型EMS vs GMS型EMS



十和田パイオニア(株) (現加賀EMS十和田) 買収により、エレクトロニクス専門メーカーとして長年培ってきた「ものづくり」のノウハウ、優秀な生産系人財と生産設備、治具設計、品質保証体系など有形無形の資産を共有することで、EMS事業の品質レベルの一層の向上、競合他社との競争優位性を強化します。

そして、同社を“マザー工場”と位置付け、海外拠点との連携、全体最適化を推し進め、経営体質の強化と事業効率の向上を図ります。

加賀EMS十和田



工場概要

本 社 : 青森県十和田市元町東一丁目15-1

従業員数 : 195名

【第1工場】

敷地面積 22,363m²

建屋面積 10,719m²

【第2工場】

敷地面積 7,201m²

建屋面積 2,545m²

主な生産品目

電子基板の実装、電子機器の組立・検査

- ◆ 車載関連
- ◆ 医療機器関連
- ◆ 民生・産業機器関連、食品加工機器関連、他

買収時期

2019年10月

2024年4月、当初予定通りメキシコ新工場が操業開始。今後ますます増大が見込まれる北米市場ならびに中南米市場向け生産需要に対応し、5年後には「売上高500億円」を目指します。

さらに、メキシコ新工場の隣接区画に完成品組立工場『TAXAN-SWE MEXICO』を新設、基板実装に加えて部品成型・板金加工を含めた「一貫生産体制」を確立します。

TAXAN MEXICO S.A. DE C.V.



工場概要

所在地 : サンルイスポトシ州 アロヨスミレニウム工業団地
従業員数 : 700人 (操業開始時点)
敷地面積 : 80,000㎡
建屋面積 : 20,000㎡
投資予定額 : 5年で約50億円 (土地、建物取得費含む)

主な生産品目

車載用照明ユニット組立て、空調機器用電装基板組立て、など

操業開始

2024年4月

日本を起点に、中国、アセアン、欧州、米州まで、世界5極にグローバル展開する生産工場を活用し、お客様のご希望に合わせた地域で生産できる体制を整えています。製品の設計開発、多品種少量生産、半完成品から完成品まで柔軟に対応できるトータルサポート体制を実現しています。

中国：港加賀電子（深圳）有限公司



概要

設立：1999年
従業員数：1,275名

生産品目

車載関連製品・産業機器・
事務機器・アミューズメント
機器・通信機器向け基板実装

アセアン：KAGA ELECTRONICS (THAILAND)



概要

設立：2002年
従業員数：907名

生産品目

車載関連製品・事務機器・
空調機器・産業機器向け基板
実装

アセアン：KAGA COMPONENTS (MALAYSIA)



概要

設立：2000年
従業員数：666名

生産品目

各種電源製品の製造ならびに
衛生機器・産業機器・民生機
器関連製品向け基板実装

欧州：KD TEC TURKEY



概要

設立：2018年
従業員数：265名

生産品目

空調機器向け電装ユニットの
組立および電動工具・車載関
連製品向け基板実装

中国大手設備メーカーと合併で、製造設備の開発/設計/製造を行うことで、圧倒的なコスト競争力に加えて、高品質で高信頼性な基板実装のトータルソリューションをお客様にご提供します。

① 局部半田槽



主な製品群

- ① 1ヘッド機 ISF-300
- ② 2ヘッド機 ISF-450-II
- ③ 4ヘッド機 ISF-450D
- ④ 4ヘッド機 ISF-450-4H
局部半田槽高速版
- ⑤ 局部フラックス塗装機

② 表面実装機



主な製品群

- ① CPM H2 : チップ部品実装
- ② CPM F2 : 異形部品実装
- ③ CPM/FH : 小型チップ部品実装

③ 検査機



主な製品群

- ① 3D SPI : クリーム半田測定
- ② SMT後AOI機 :
実装部品外観検査
- ③ 半田槽前S-AOI :
手差し部品検査
- ④ 半田槽後AOI :
半田上がり検査、部品浮き検査

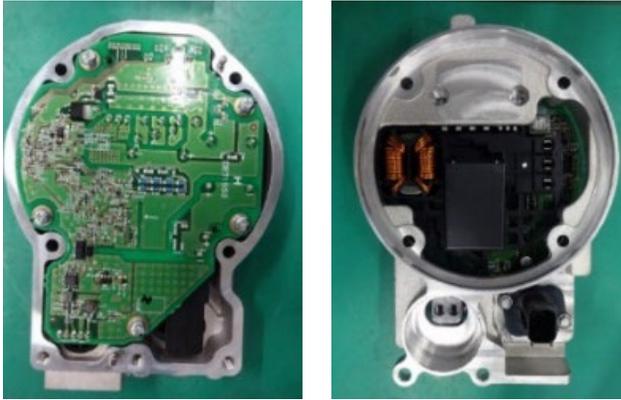
④ 垂直高温炉



主な製品群

- ① Coating硬化炉
Coating後完全硬化
- ② Potting硬化炉
Potting後完全硬化
- ③ 高温老化試験炉
完成品高温老化試験

電動コンプレッサユニット



車載用照明ユニット



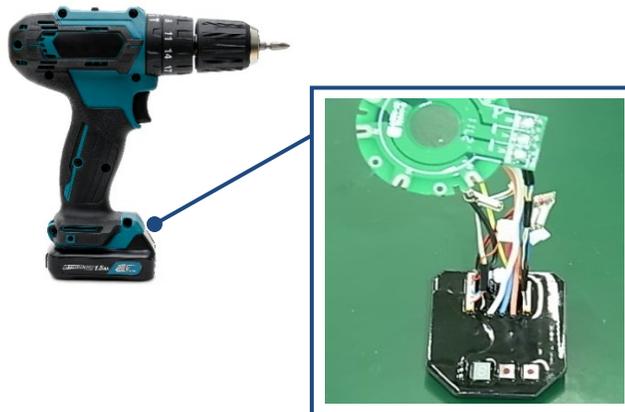
医療機器ユニット（薬保管キャビネット）



空調関連機器



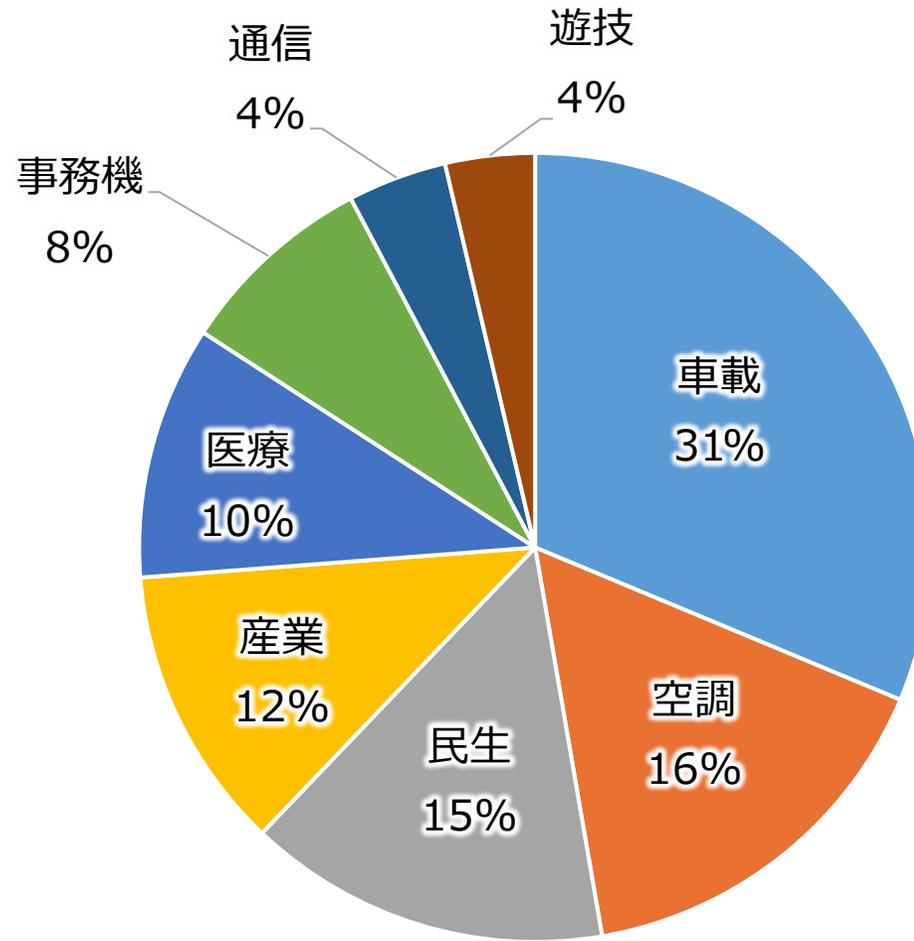
電動工具関連製品



事務機器



売上高：1,345億円



2025年3月期

『中期経営計画 2027』について

『中期経営計画 2027』（2025年度～2027年度）

「収益性と資本効率を重視した経営により、企業価値を高める」

更なる収益力の向上

経営基盤の高度化

SDGs経営の推進

創業60周年
(2028年度)

“グローバル競争に勝ち残る世界に通用する企業”
“我が国業界No.1企業”

売上高 **1兆円**

既存事業の成長の上に、新規事業の創出・獲得や
M&A・パートナーシップ拡大による収益成長

売上高
8,000億円以上

中核事業の成長・拡大による収益成長

売上高
7,000億円以上

商社ビジネスの拡大をEMSビジネスの成長につなげる



商社ビジネスの
規模拡大



EMSビジネスに
よる
高付加価値化

基本方針

収益性と資本効率を重視した経営により、企業価値を高める

重点施策		主なアクションプラン
更なる収益力の向上	中核事業の拡大	■ 事業ポートフォリオマネジメントの実践
	M&Aへの挑戦	■ 「2028年度1兆円」に向けて、1,000億円超の新たな事業収益を獲得
	新規事業の創出	■ 「エネルギー」「インフラ」「交通」「環境」を重点テーマとして新規事業を探索
経営基盤の高度化	資本戦略の実践	■ 戦略的なキャッシュアロケーションと積極的な株主還元
	人的資本への投資	■ 人事諸制度の改革（海外人財育成、人材多様化促進、など）
SDGs経営の推進	ESG経営課題への対応加速	<ul style="list-style-type: none"> ■ 環境：カーボンニュートラルに向けた再生可能エネルギー100%化推進 ■ 社会：女性活躍推進、働き方改革、従業員エンゲージメント ■ 統治：「女性取締役」「監査等委員会設置会社」の早期実現

	前中計最終年度 (2024年度実績)	中計最終年度 (2027年度)	CAGR
1兆円を視野に 3年後に目指す 経営目標	売上高	8,000億円以上	
	営業利益	360億円以上	
オーガニック成長 による収益目標	売上高	7,000億円以上	8.5%
	営業利益 (営業利益率)	350億円以上 (5.0%)	14.0%
資本効率性の 指標	ROE [[参考]株主資本コスト]	12.0%以上 [10%前後]	

<補足>事業セグメント別の内訳

		前中計最終年度 (2024年度実績)	中計最終年度 (2027年度)	CAGR
電子部品事業	売上高	3,477億円	4,000億円	4.8%
	セグメント利益	102億円	165億円	17.4%
EMS事業	売上高	13450億円	2,300億円	19.6%
	セグメント利益	73億円	135億円	22.7%
CSI事業	売上高	426億円	550億円	8.9%
	セグメント利益	33億円	40億円	6.6%
その他事業	売上高	228億円	150億円	-
	セグメント利益	15億円	10億円	-
合計	売上高	5,477億円	7,000億円	8.5%
	セグメント利益	236億円	350億円	14.0%

基本的な考え方 ▶ 独立系エレクトロニクス総合商社として、部品調達に留まらず、半完成品/完成品の生産受託、販売からアフターサービスまで、ワンストップサービスの強みを最大化する

	加賀電子	加賀FEI	エクセル	売上高 (億円)
電子部品事業	<ul style="list-style-type: none"> 業界トップクラスの顧客関係力と調達力の強みをベースに、“加賀電子流”営業に拘る 	<ul style="list-style-type: none"> SoC商材を中核に、ラインカードの拡充を進め、ラージ アカウントを中心とした拡販 戦略を加速する 	<ul style="list-style-type: none"> 加賀電子商材のクロスセルを通じて、“エレクトロニクス 総合商社”へ変容 	25/3期 3,477 28/3期 4,000
EMS事業	<ul style="list-style-type: none"> グローバル5 極生産体制による顧客密着の「地産地消型」EMS事業を展開 	<ul style="list-style-type: none"> 設計段階から関与するE2MSを加速 開製販一体運営の小型無線モジュール事業を拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ディスプレイ商材の強みを活かした交通インフラ系B2B顧客を開拓 	25/3期 1,345 28/3期 2,300
CSI事業	<ul style="list-style-type: none"> 「量販店」「学校・教育機関」など販売チャネルの強みを活かして情報機器製品・サービスを展開 			25/3期 426 28/3期 550
その他事業	<ul style="list-style-type: none"> 「利益重視の経営」を徹底し、規模拡大より“儲かるビジネス”に集中 			25/3期 228 28/3期 150
売上高 (億円)	25/3期 3,195 28/3期 4,000	25/3期 1,978 28/3期 2,600	25/3期 303 28/3期 400	25/3期 5,477 28/3期 7,000

基本的な考え方

日本を起点として世界 5 極をカバーするグローバル生産体制のもと、お客様のものづくりに寄り添い、各市場に根ざした「地産地消型」のEMS事業を展開する

1970年代より日本・中国にて協力工場を活用し、顧客要望に応じて「加工取引(現在のEMS事業)」を開始。
1990年代以降は、日系顧客の海外生産シフトに迅速に対応、深圳を皮切りに自社工場を順次展開し世界10カ国に21拠点を構える。

	1990年代	2000年代	2010年代	2020年以降	主要施策	注力分野	売上高 (億円)
日本		ハイマン電子譲受 現山形工場('02)	十和田 ^o 伊コア譲受、 福島に工場建設 ('19)	旭東電気(鳥取)を 子会社化('20)	<ul style="list-style-type: none"> 国内生産回帰の顧客需要取り込み マザー工場として標準化・高度化の展開 	車載・空調 医療機器 など	25/3期 350 28/3期 800
中国	深圳('99)	蘇州(2工場) ('09)	孝感(湖北)('15)		<ul style="list-style-type: none"> 中国ローカル顧客開拓およびグループ内最適地での生産支援 自動化設備の開発および販売強化 	車載・ 産業機器	25/3期 470 28/3期 550
アジア		タイ('02) マレーシア('00)	ベトナム('17) インド('18) インドネシア('14)	タイ第2工場('19) マレーシア新工場('22)	<ul style="list-style-type: none"> インド国内及び輸出向け需要増を見据えた自社工場投資 	車載・空調 情報機器 など	25/3期 380 28/3期 500
欧州		チェコ('09)	トルコ('18)	トルコ新工場('23)	<ul style="list-style-type: none"> 日系顧客の消費地生産需要増の取り込み 欧州ローカル顧客の開拓 	空調・産業機器 通信機器 など	25/3期 70 28/3期 100
米州			メキシコ('17)	メキシコ新工場('24)	<ul style="list-style-type: none"> 米国向け及び南米向け需要増も見据えたメキシコ第2期工場投資 	空調・車載 医療機器 など	25/3期 75 28/3期 350

基本的な考え方

企業価値の向上に向けて、財務規律を維持しつつ、
創出したキャッシュは「成長投資」と「株主還元」に積極的に配分する

2025年度～2027年度累計



キャッシュイン



キャッシュアウト

主な用途

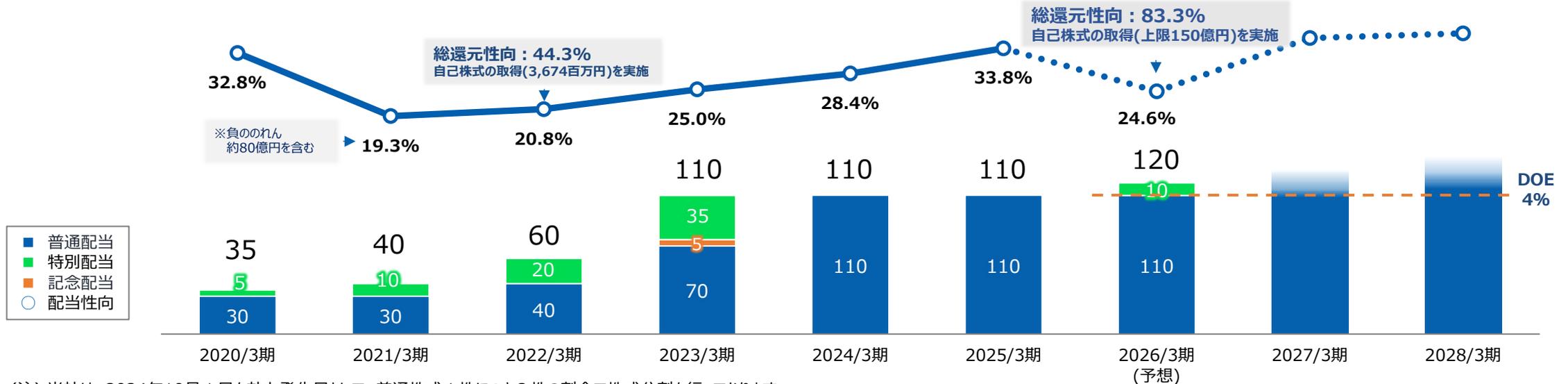
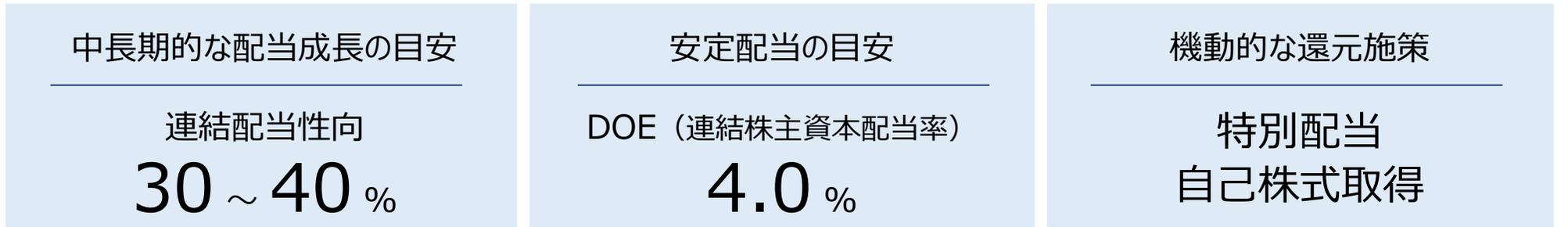
- 新規M&A
- EMS生産能力増強
- DX投資
- 人的資本投資、など

不要になった場合は、株主還元へ

累計220-300億円規模の
「株主還元」を実施

- 配当性向：30~40%
- DOE：4%

- 株主の皆様に対してより積極的に配当を実施する観点から、「連結配当性向30~40%」に引き上げ、中長期的な利益成長を通じた配当成長に努める。
- 普通配当については、安定的かつ継続的な配当の目安として、「DOE4.0%」を新たな指標とする。
- 利益水準や資本効率性に応じた追加施策として、特別配当や自己株式取得を機動的に実施する。

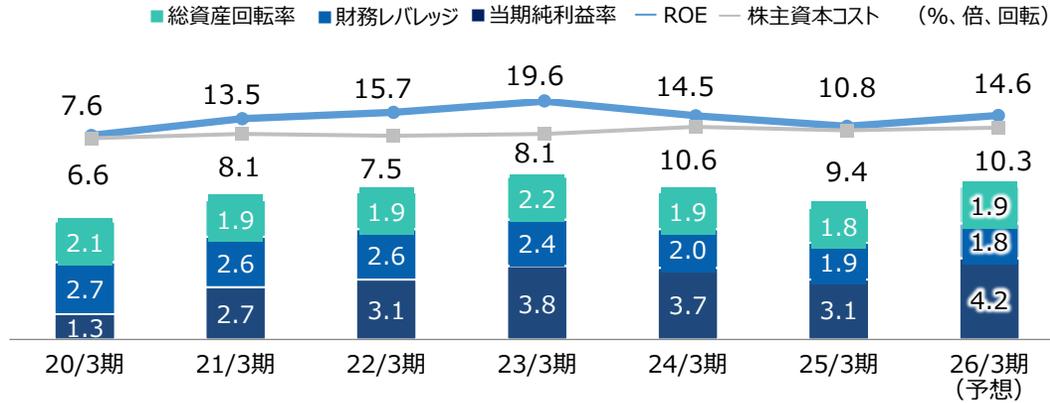


(注) 当社は、2024年10月1日を効力発生日として、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。配当金額は、分割日以前についても当該株式分割の影響を考慮した金額を記載しております。

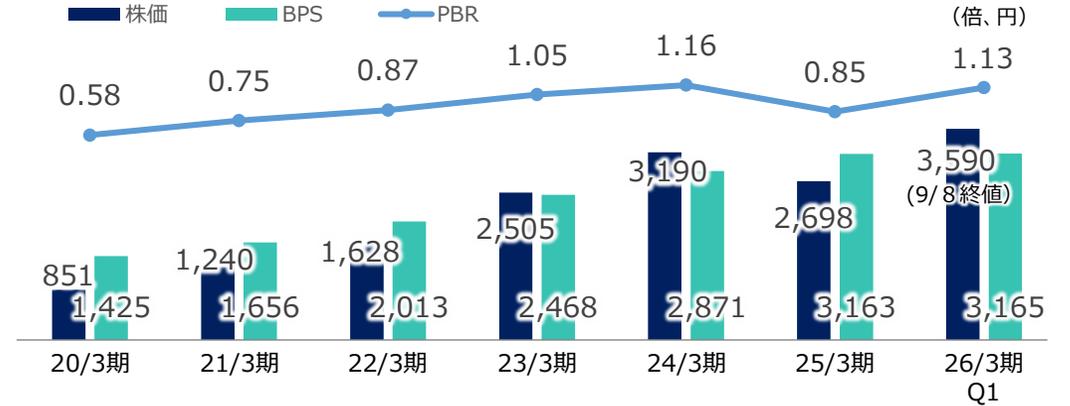
『サステナビリティ中長期経営計画』で策定した定量目標の達成を目指しながら、持続可能な社会の実現に積極的な役割を果たすとともに、企業価値の持続的成長に取り組む。

	主なテーマ	代表的なKPI
環境 クリーンな地球環境を作る	再生可能エネルギー100%化の実現	■ 国内営業拠点:2030年、国内外生産拠点:2050年
	社有車両のEV化	■ 国内営業車両:2030年100%
	CO2排出量削減	■ 2030年度[Scope1+2:▲42%、Scope3:▲25%]
社会 働きやすい会社、豊かな社会を作る	ダイバーシティと人財マネジメント	■ 女性管理職比率:2029年17%
	ワークライフマネジメントと生産性向上	■ 健康経営優良法人認定の継続取得
統治 持続可能な経営基盤を作る	東証改革に対応したガバナンス体制	■ 女性社外取締役選任を早期実現
	経営の監督/執行機能の一層強化	■ 監査等委員会設置会社への早期移行

ROEの推移



PBRの推移



現状認識

- ROEは、二桁%を維持し資本コストを上回る水準も、直近2年は漸減傾向となる。
- PBRは、前中計期間から改善傾向が顕著となり、23年2月以降は1倍超の水準で推移した。24年8月の東証株価大暴落からの戻り鈍く、1倍を切った状況が続いたが、Q1発表以降1倍を回復。

今後の取り組み

1. 中期経営計画の着実な実行
 - 中期経営計画に沿って事業成長と収益性の向上に取り組み、経営目標の実現を目指す。
2. 株主満足度の向上
 - 「連結配当性向30~40%」へ引き上げ、安定的かつ継続的な配当の目安として「DOE4.0%」を設定する。
3. SDGs経営の推進
 - Scope1~3でGHG排出量削減目標を策定・公表し、CDP・TCFDなど外部機関による評価向上を図る。
4. 積極的なIR活動の維持・強化
 - 資本市場への開示拡充や積極的な対話を通じて、当社経営に対する信頼性を一層高め、資本コストの低減を図る。

(注) 当社は、2024年10月1日を効力発生日として、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。2024年10月1日以前の株価、BPSについても当該株式分割調整後の金額を記載しています。

2026年3月期Q1決算について

2026年3月期 Q1実績

	売上高	営業利益	四半期純利益
Q1 実績	1,380 億円	64 億円	46 億円
前年同期比	+94億円	+9億円	+4億円

- **前年同期比「増収」、すべての段階利益で「増益」**。新中計初年度として順調なスタート
- 売上高 : 電子部品事業 (EMSビジネス)、情報機器事業 (パソコン販売)、その他事業 (アミューズメント機器販売) が好調に推移し、増収を牽引
- 営業利益・純利益 : 増収・利益率改善に伴う売上総利益増および販管費抑制により増益

2026年3月期 業績予想

	売上高	営業利益	当期純利益
今回予想	5,740 億円	240 億円	242 億円
前回予想比	+440億円	+10億円	+77億円

- TOBによる協栄産業の連結子会社化に伴い、前回予想 (5/14公表) に同社のQ2以降の見通しを加え、**通期業績予想を上方修正**。前回予想から一転して、「増収増益」を見込む
- 当期純利益は、買収に伴う「負ののれん発生益 (72億円)」を織り込む

株主還元

- 「**総額150億円、492万株 (発行済株式総数の9.4%)**」を上限に**自己株式取得・消却** (8/7公表)
- 業績修正を踏まえ、**10円増配修正し、年間配当は1株当たり120円** (前期比+10円) (8/7公表)
※24年10月に株式分割 (1:2) を実施。前期比10円増配は、分割調整後の年間配当金で算出

2026年3月期Q1 業績ハイライト



(単位：百万円)	Q1実績 (4-6月)					通期業績予想 (2025/5/14公表)		
	FY2025/3	構成比	FY2026/3	構成比	前年同期比	FY2026/3	構成比	進捗率
売上高	128,638	100.0%	138,086	100.0%	7.3%	530,000	100.0%	26.1%
売上総利益	16,980	13.2%	18,440	13.4%	8.6%	—	—	—
販売費及び一般管理費	11,430	8.9%	11,956	8.7%	4.6%	—	—	—
営業利益	5,550	4.3%	6,484	4.7%	16.8%	23,000	4.3%	28.2%
経常利益	6,045	4.7%	6,242	4.5%	3.3%	23,000	4.3%	27.1%
親会社株主に帰属する四半期純利益	4,127	3.2%	4,614	3.3%	11.8%	16,500	3.1%	28.0%
EPS (円)	78.56	—	87.80	—	—	313.95	—	—
為替レート 円/US\$	155.88	—	144.59	—	—	140.00	—	—

(注) : 1. 為替による影響額は、売上高が△3,126百万円、営業利益が△66百万円です。
 2. 2024年10月1日を効力発生日として、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。
 前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「1株当たり四半期純利益」を算出しております。

2026年3月期Q1 セグメント別業績

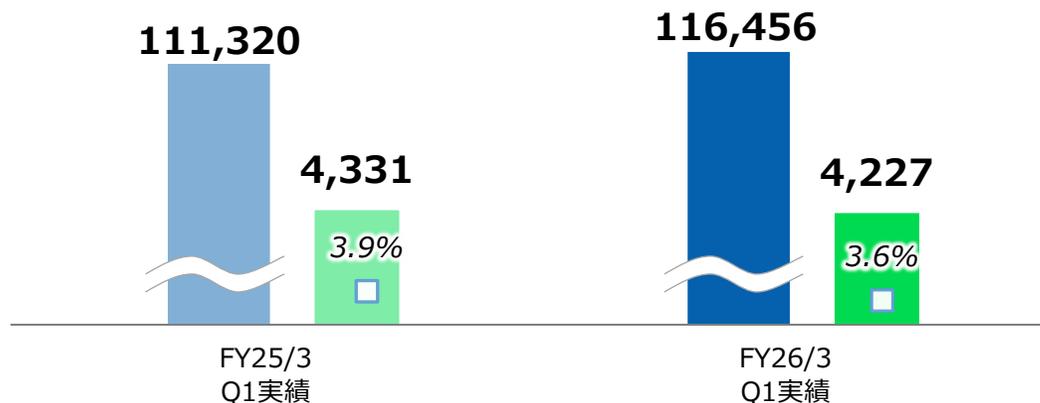
(単位：百万円)		Q1実績 (4-6月)				通期業績予想 (2025/5/14公表)			
		FY2025/3	利益率	FY2026/3	利益率	前年同期比	FY2026/3	利益率	進捗率
電子部品	売上高	111,320		116,456		4.6%	457,000		25.5%
	セグメント利益	4,331	3.9%	4,227	3.6%	△2.4%	16,500	3.6%	25.6%
情報機器	売上高	10,606		12,116		14.2%	45,000		26.9%
	セグメント利益	639	6.0%	821	6.8%	28.5%	3,500	7.8%	23.5%
ソフトウェア	売上高	631		591		△6.3%	3,000		19.7%
	セグメント利益	35	5.6%	△42	△7.2%	—	500	16.7%	—
その他	売上高	6,079		8,921		46.8%	25,000		35.7%
	セグメント利益	461	7.6%	1,362	15.3%	195.3%	2,500	10.0%	54.5%
合計	売上高	128,638		138,086		7.3%	530,000		26.1%
	セグメント利益	5,550	4.3%	6,484	4.7%	16.8%	23,000	4.3%	28.2%

(注)：セグメント利益については、各事業部門では調整前の数値を記載し、合計は調整後の数値（営業利益）を記載しております。

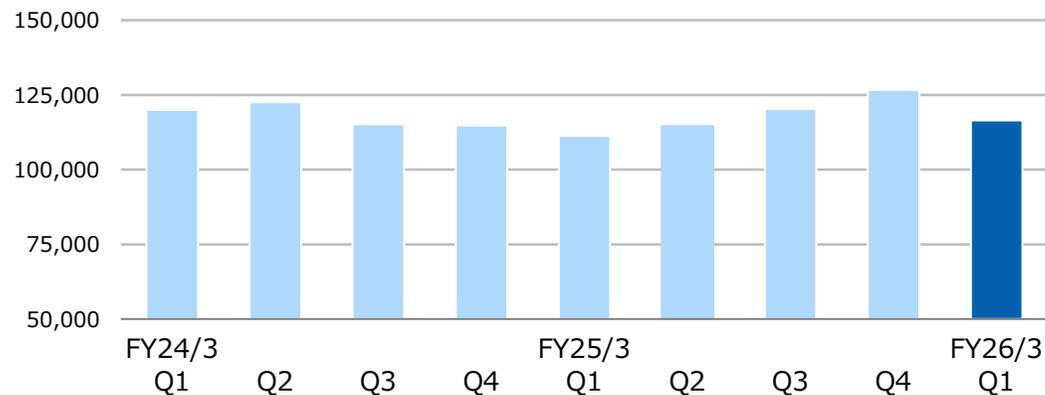
売上高・セグメント利益

(単位：百万円)

■ 売上高 ■ セグメント利益
□ セグメント利益率



セグメント売上高（四半期推移）



Q1実績（4-6月）

(単位：百万円)

	FY2025/3	FY2026/3	前年同期比	
売上高	111,320	116,456	+5,135	4.6%
セグメント利益	4,331	4,227	△103	△2.4%
利益率	3.9%	3.6%	△0.3pt	

主な増減要因

部品販売
ビジネス

- (-) 一部顧客において在庫調整が長期化
- (-) 特定海外顧客における需要減の影響
- (+) 新規商材を拡販

これらの結果、前年同期比で「増収減益」

EMS
ビジネス

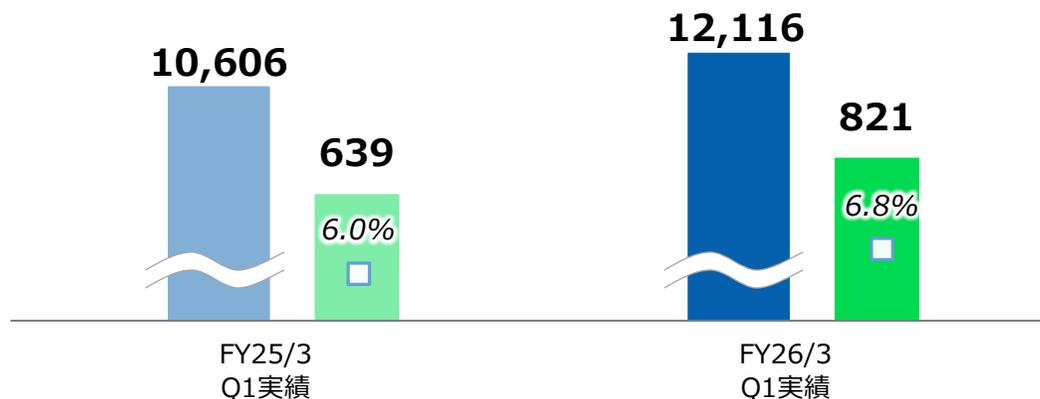
- (+) 医療機器向け、産業機器向けは好調
- (+) 空調機器向けは回復基調が継続
- (-) 車載向け一部顧客で需要減

これらの結果、前年同期比で「増収増益」

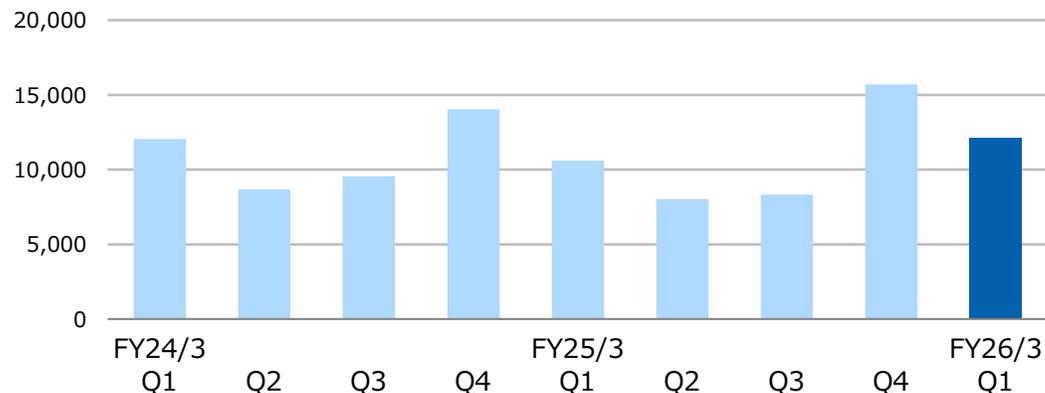
売上高・セグメント利益

(単位：百万円)

■ 売上高 ■ セグメント利益
□ セグメント利益率



セグメント売上高（四半期推移）



Q1実績（4-6月）

(単位：百万円)

	FY2025/3	FY2026/3	前年同期比	
売上高	10,606	12,116	+1,510	14.2%
セグメント利益	639	821	+181	28.5%
利益率	6.0%	6.8%	+0.8pt	

主な増減要因

パソコン販売
ビジネス

- (+) 新入学生向け需要期で教育機関向け販売が好調
- (+) 量販店向けは主要PCメーカーのラインナップ拡充により回復
- (+) 比較的高採算のセキュリティソフト販売が好調

これらの結果、前年同期比で「増収増益」

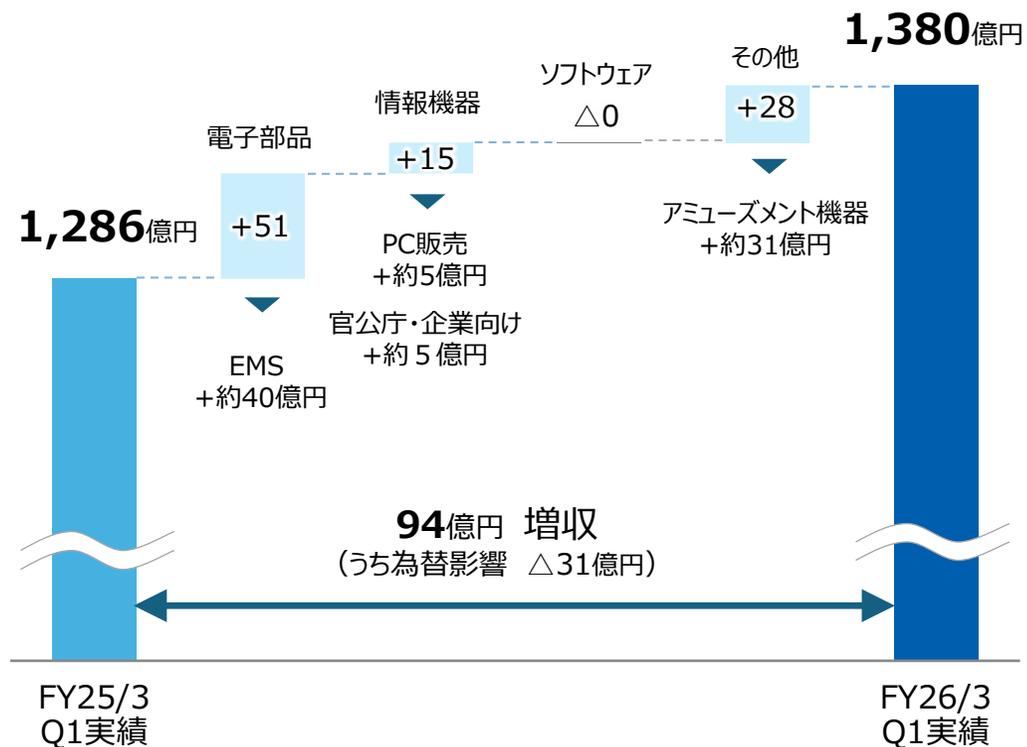
電気・通信機器
設置ビジネス

- (+) コンビニチェーン向けLED照明工事は堅調
- (+) 電気設備（受変電・太陽光パネル）工事の受注拡大
- (-) 先行投資として施工人員増強に伴い販管費増

これらの結果、前年同期比で「増収減益」

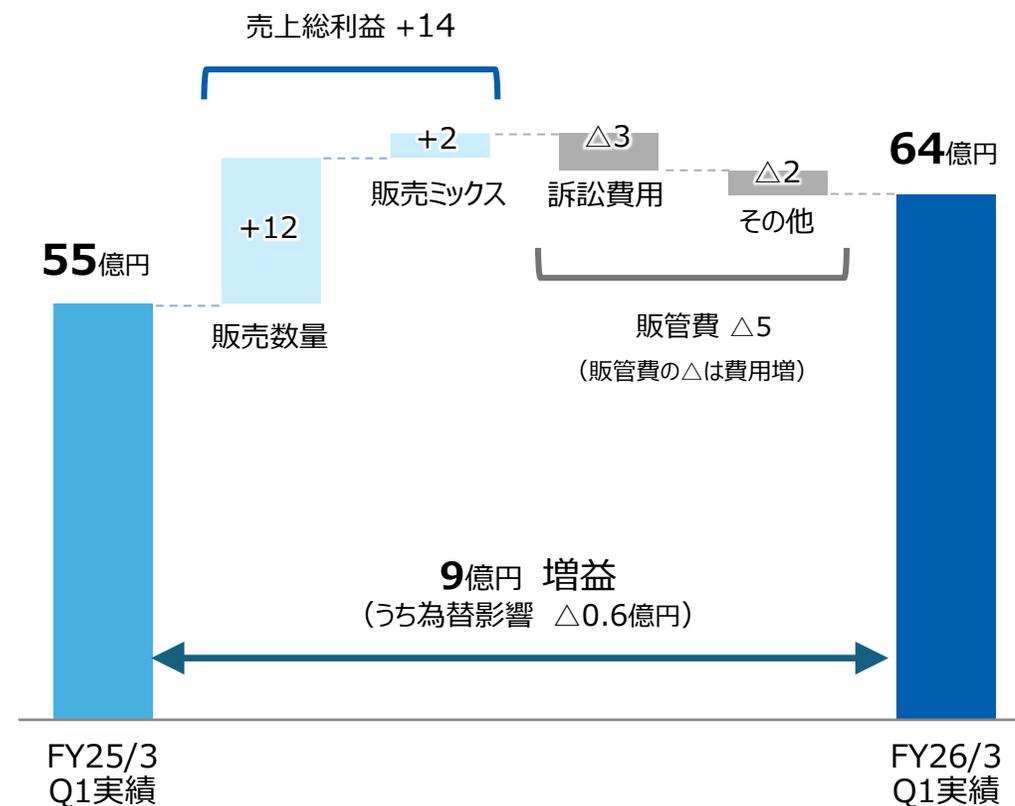
売上高

(単位：億円)



営業利益

(単位：億円)



新中計における 株主還元方針 (2024/11/6公表)

- 中長期的な配当成長の目安：「**連結配当性向30~40%**」に引き上げ（従来方針は25~35%）
- 安定配当の目安：「**DOE（連結株主資本配当率）4%**」を新たに導入
- 機動的な還元施策：利益水準や資本効率性に応じて、**特別配当**や**自己株式取得**を機動的に実施

自己株式取得 (2025/8/7公表)

- CGコードの要請に沿った政策保有株式縮減の観点から、**取引金融機関4行より保有株式売却**の意向
- 一定数以上の当社株式が市場で**一定の期間内に断続的に売却された場合の株価に与える影響**を考慮、東京証券取引所の自己株式立会外買付取引（ToSTNeT-3）にて**全株取得することが適当と判断**
- 前中計期間では大型M&Aを手控えた結果、**積みあがったネットキャッシュ466億円を原資として総額150億円、492万株（発行済株式総数の9.4%）の自己株式取得および全株消却**を実施
- 新中計で定めた、**資本効率性の改善と積極的な株主還元（EPSの向上）を志向する資本政策の一環**

配当修正 (2025/8/7公表)

- 協栄産業グループ会社化による業績予想修正のうち、キャッシュインを伴わない**負ののれん発生益72億円を除外した実質ベースでの利益修正を配当予想に反映**
- 中間および期末配当は前回予想の普通配当55円に**特別配当5円を加え、1株当たり60円**に増配修正
- 年間配当金は**前期実績から10円増配の1株当たり120円**。DOEは**4.2%の見込み**

※24年10月に株式分割（1:2）を実施。前期比10円増配は、分割調整後の年間配当金で算出

協栄産業の概要	<ul style="list-style-type: none">● 名称 協栄産業株式会社● 代表者 代表取締役社長 平澤 潤● 所在地 東京都品川区東品川4-12-6● 事業内容 販売：半導体、電子デバイス、産業機器、情報通信機器、3Dプリンター、プリント配線板 など 開発：ソフトウェア、アプリケーション、システムソリューション、エンベデッドシステム、ICデザイン など 製造：情報通信機器 など
買収の狙い	<ul style="list-style-type: none">● 半導体デバイス：重複しない製品を相互補完、当社が持つEMSネットワークを活用した付加価値創出● 産業機器システム：当社のグローバルな対応力を活用してインドなど海外市場で販売拡大● システム開発：当社の有するアセット（ハード、ソフト）と組み合わせ、ソリューション提案を拡大
買収のスキーム	<ol style="list-style-type: none">① 2025年7月18日：TOB実施し普通株式45.16%取得。当社保有株と併せ連結子会社化（54.48%）② 2025年10月中旬（予定）：株式併合により、TOB不応募の一般株主保有株（27.16%）を買取り③ 2025年11月上旬（予定）：三菱電機保有株（18.35%）を全株取得、100%子会社化
買収金額	<p>①～③を合わせて、総額約107億円（予定）</p>

協栄産業のグループ会社化による業績への影響

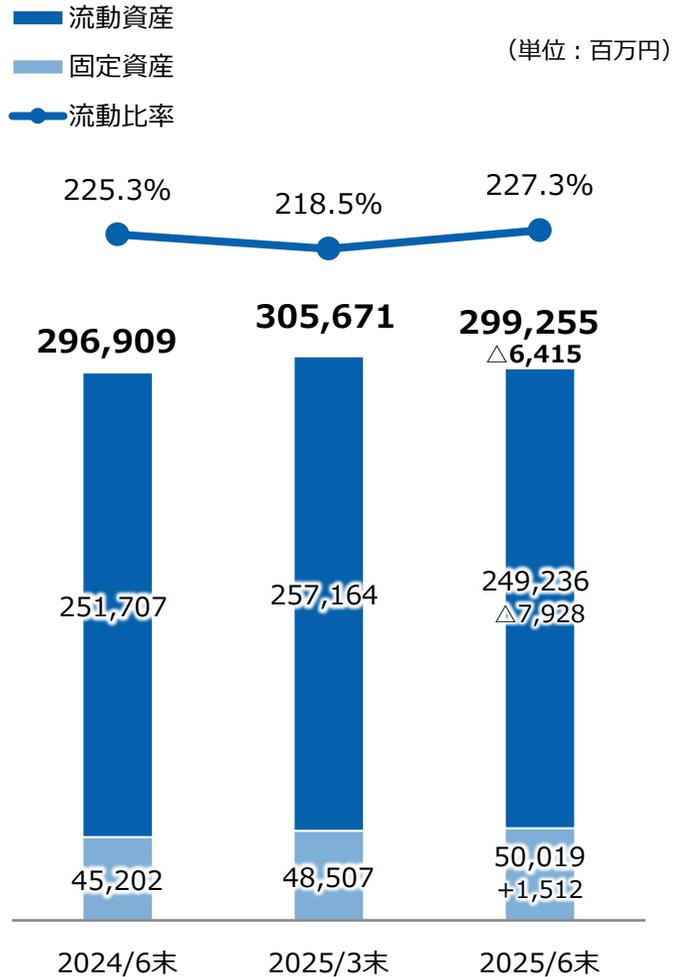
加賀電子の前回予想数値に協栄産業のQ2以降の見通しを加え、さらに本企業買収にともなう負ののれん発生益を織り込む



(単位：百万円)	加賀電子 前回予想 (2025/5/14公表)		協栄産業		加賀電子 (修正後) 今回予想 (2025/8/7公表)	
	FY2026/3 通期	利益率	FY2026/3 Q2-Q4	利益率	FY2026/3 通期	利益率
売上高	530,000		44,000		574,000	
営業利益	23,000	4.3%	1,000	2.3%	24,000	4.2%
経常利益	23,000	4.3%	800	1.8%	23,800	4.1%
負ののれん発生益	—		—		7,200	
親会社株主に帰属する当期純利益	16,500	3.1%	500	1.1%	24,200	4.2%

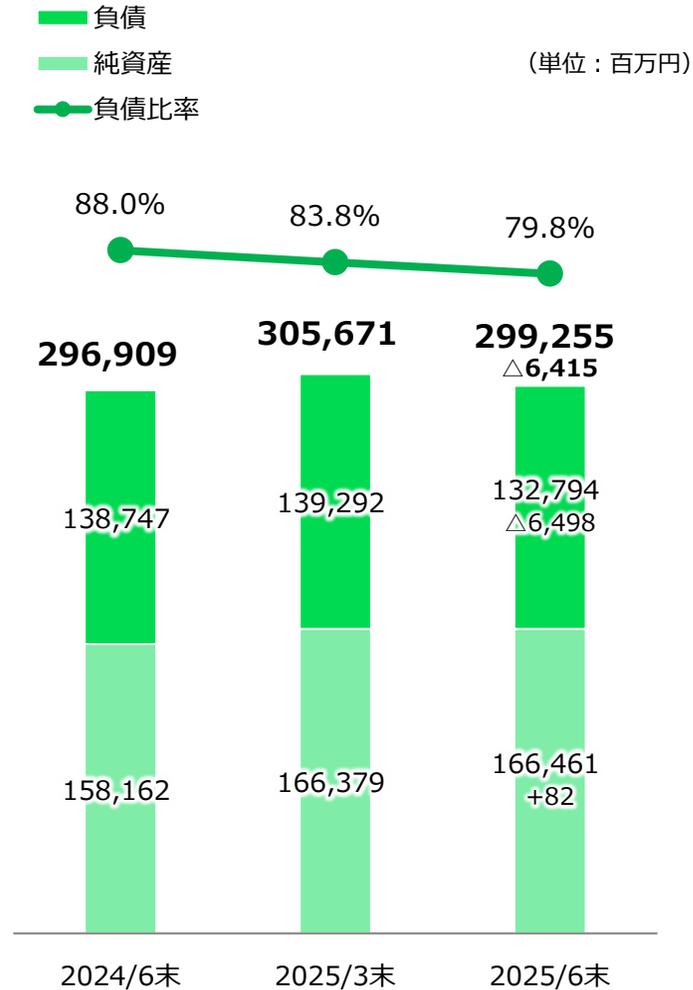
貸借対照表主要項目

総資産



(注): 流動比率 = 流動資産 ÷ 流動負債

負債・純資産



(注): 負債比率 = 負債合計 ÷ 自己資本 × 100

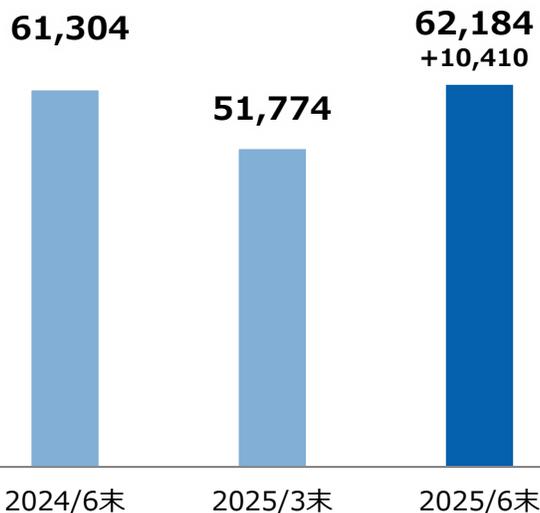
主な増減内容等

- 流動資産
 - (-) 売掛金 (128億72百万円)
 - (-) 現金及び預金 (48億76百万円)
 - (+) 商品及び製品 (85億97百万円)
- 固定資産
 - (+) 投資有価証券 (16億64百万円)
- 負債
 - (-) 1年以内変換予定の社債 (50億円)

貸借対照表主要項目

棚卸資産

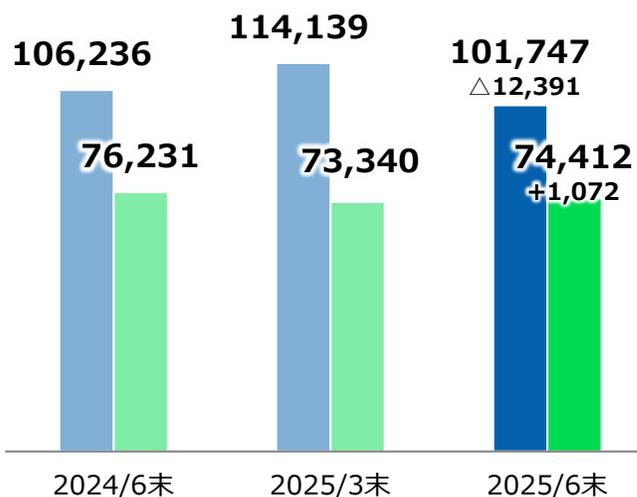
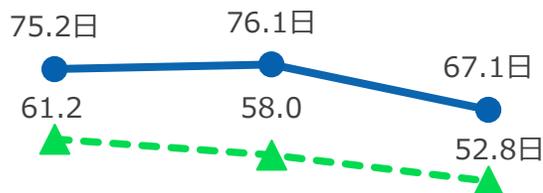
■ 棚卸資産
● 在庫回転日数 (単位: 百万円)



(注): 在庫回転日数 = 棚卸資産 ÷ 売上高 × 365 (6末は91日)

売上債権・仕入債務

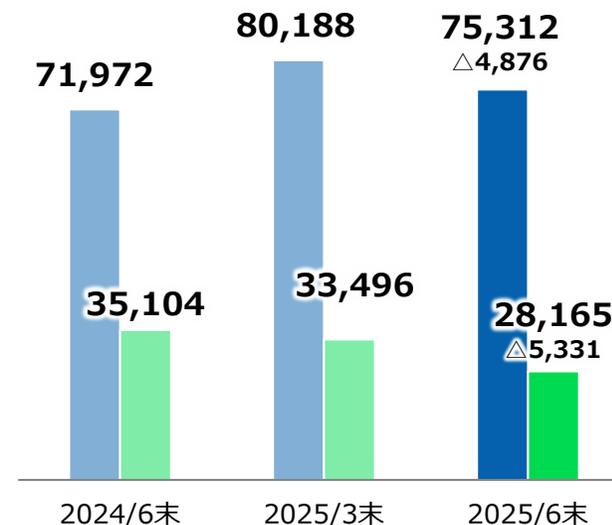
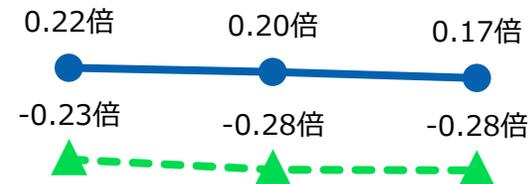
■ 売上債権
■ 仕入債務
-▲- 仕入債務回転日数
● 売上債権回転日数 (単位: 百万円)



(注): 1. 売上債権回転日数 = 受取手形及び売掛金 ÷ 売上高 × 365 (6末は91日)
2. 仕入債務回転日数 = 支払手形及び買掛金 ÷ 仕入高 × 365 (6末は91日)
3. 受取手形及び売掛金については、電子記録債権を含めた金額となっております。
4. 支払手形及び買掛金については、電子記録債務を含めた金額となっております。

現預金・有利子負債

■ 現預金
■ 有利子負債
● D/Eレシオ
-▲- ネットD/Eレシオ (単位: 百万円)



(注): 1. D/Eレシオ = 有利子負債 ÷ 自己資本
2. ネットD/Eレシオ = (有利子負債 - 現預金) ÷ 自己資本

2026年3月期 業績予想

(単位：百万円)	FY2025/3		FY2026/3			前回予想比	前年比
	実績	構成比	前回予想 (25/5/14公表)	今回予想	構成比		
売上高	547,779	100.0%	530,000	574,000	100.0%	8.3%	4.8%
営業利益	23,601	4.3%	23,000	24,000	4.2%	4.3%	1.7%
経常利益	22,593	4.1%	23,000	23,800	4.1%	3.5%	5.3%
親会社株主に帰属する当期純利益	17,083	3.1%	16,500	24,200	4.2%	46.7%	41.7%
EPS (円) (注)	325.08	—	313.95	488.45	—	—	—
ROE	10.8%	—	10.0%	14.6%	—	4.6pt	3.8pt
年間配当金 (円) (注)	合計	110	110	120	—	10	10
	中間	55	55	60	—	5	5
	期末	55	55	60	—	5	5
為替レート	円/US\$	152.58	140.00	140.00	—	—	—

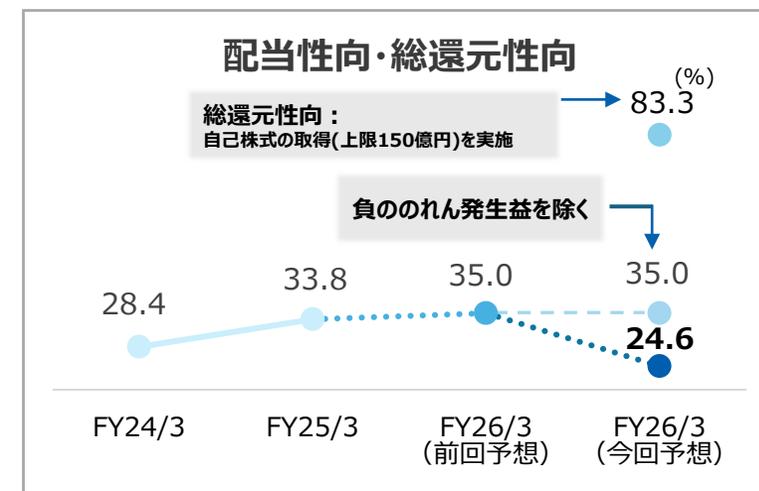
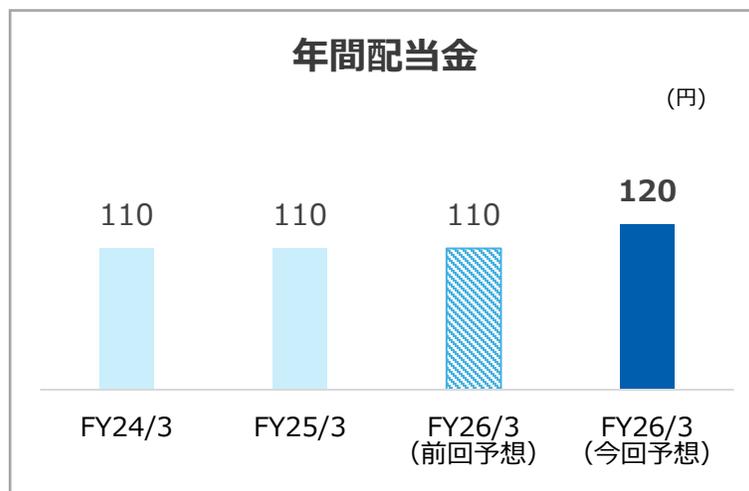
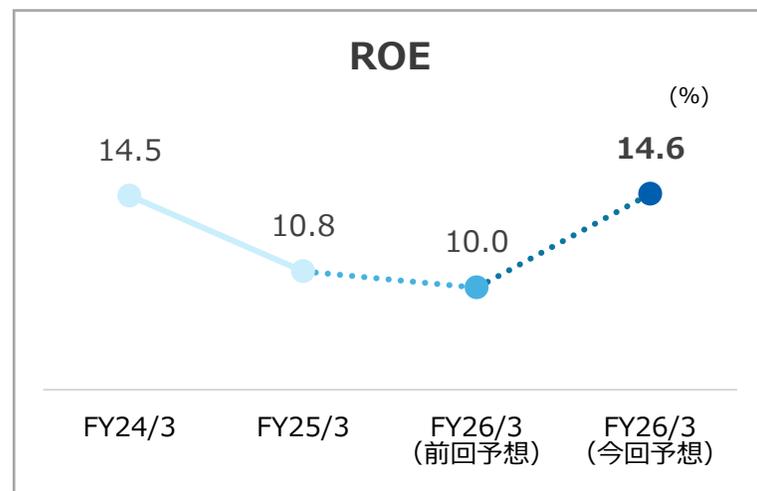
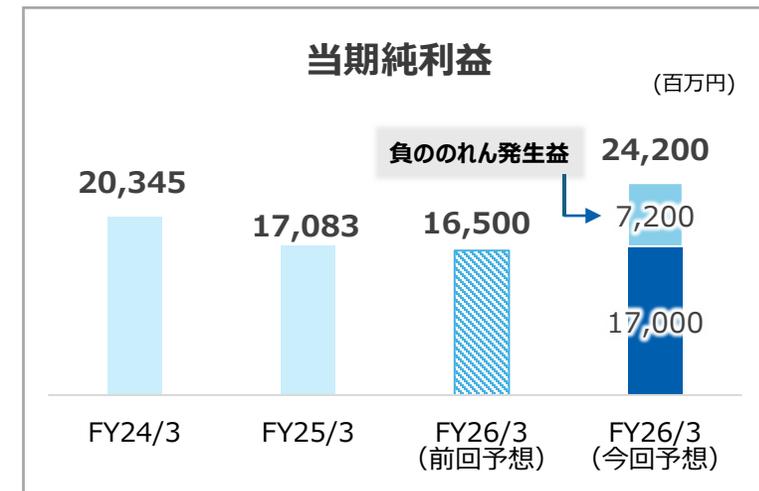
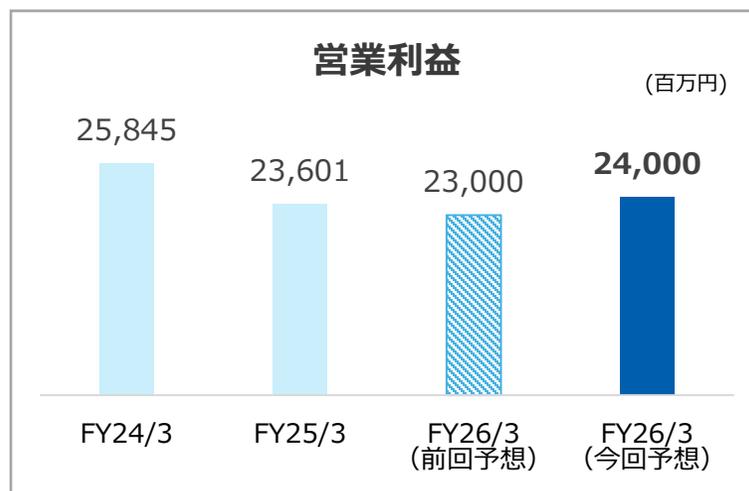
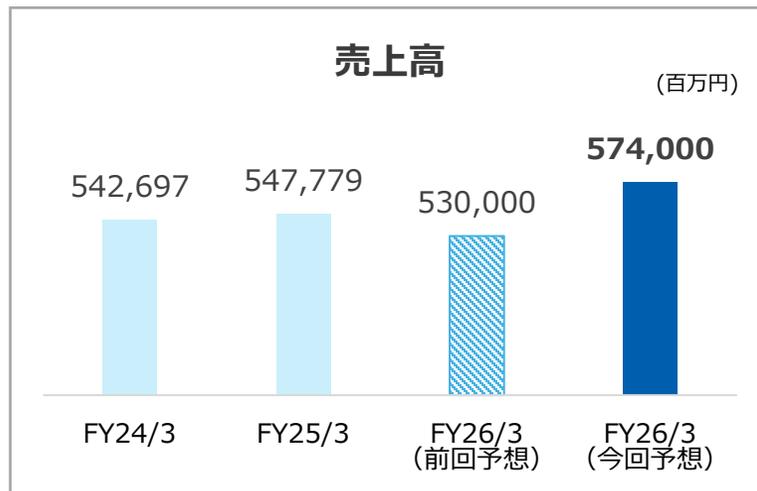
(注) 当社は、2024年10月1日を効力発生日として、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。
EPS、および年間配当金は、分割日以前についても当該株式分割の影響を考慮した金額を記載しております。

2026年3月期 セグメント別業績予想

(単位：百万円)	FY2025/3		FY2026/3			前回予想比	前年比
	実績	利益率	前回予想 (25/5/14公表)	今回予想	利益率		
電子部品	売上高	472,910	457,000	501,000		9.6%	5.9%
	セグメント利益	16,927	3.6%	16,500	17,500	3.5%	6.1%
情報機器	売上高	42,652	45,000	45,000		—	5.5%
	セグメント利益	3,307	7.8%	3,500	3,500	7.8%	—
ソフトウェア	売上高	3,387	3,000	3,000		—	△11.4%
	セグメント利益	509	15.1%	500	500	16.7%	—
その他	売上高	28,829	25,000	25,000		—	△13.3%
	セグメント利益	2,707	9.4%	2,500	2,500	10.0%	—
合計	売上高	547,779	530,000	574,000		8.3%	4.8%
	セグメント利益	23,601	4.3%	23,000	24,000	4.2%	4.3%

(注) セグメント利益は、各セグメントでは調整前の数値、合計は調整後の数値（営業利益）を記載しております。

協栄産業のグループ会社化により「増収増益」予想に転じ、自己株取得等の資本政策により「資本効率性向上」を図る



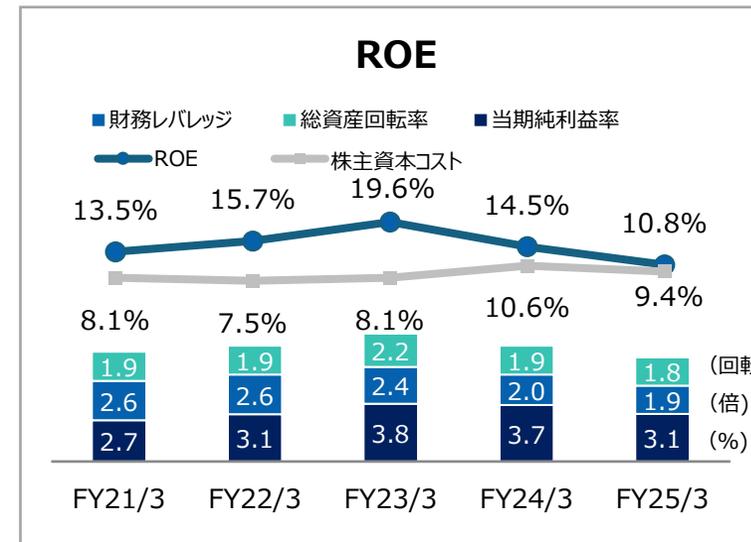
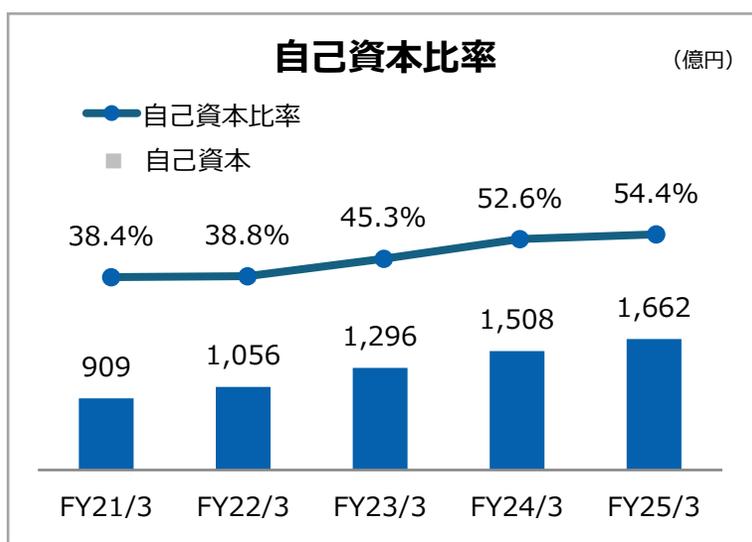
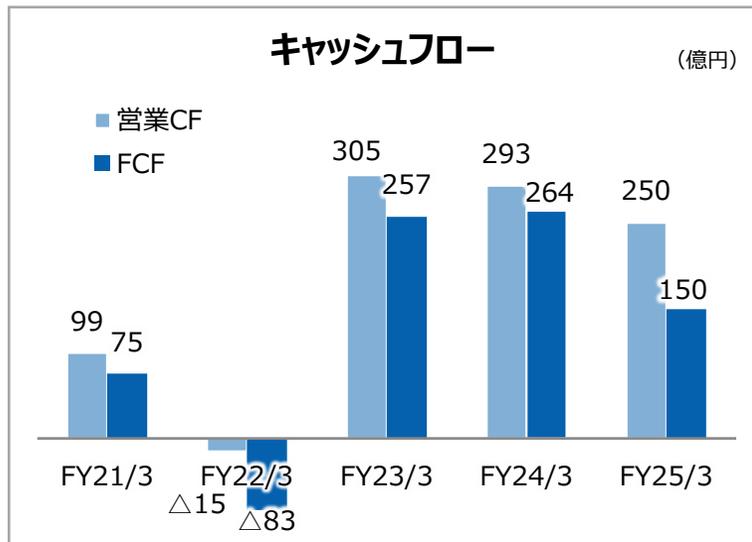
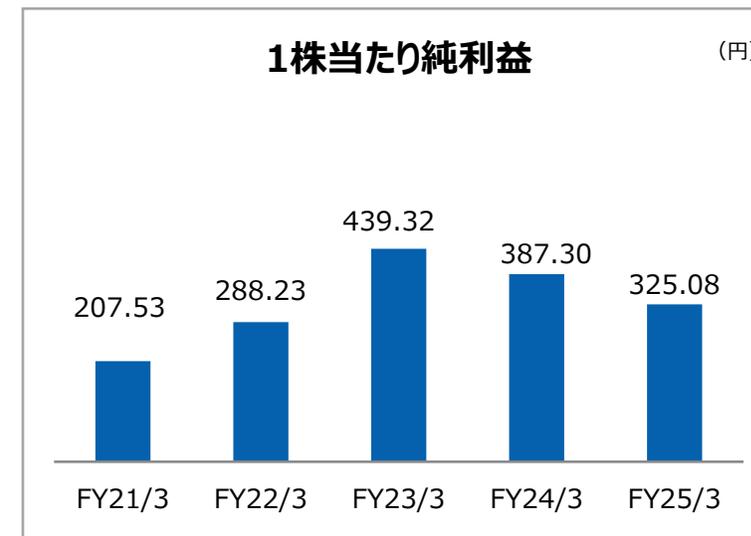
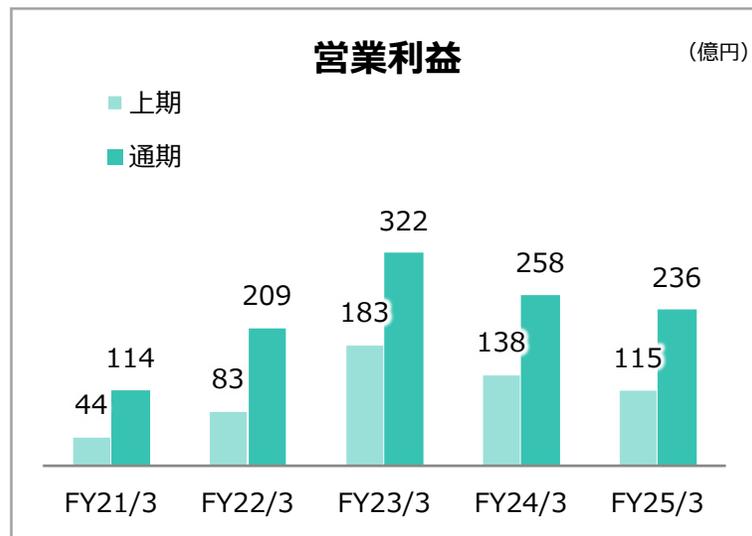
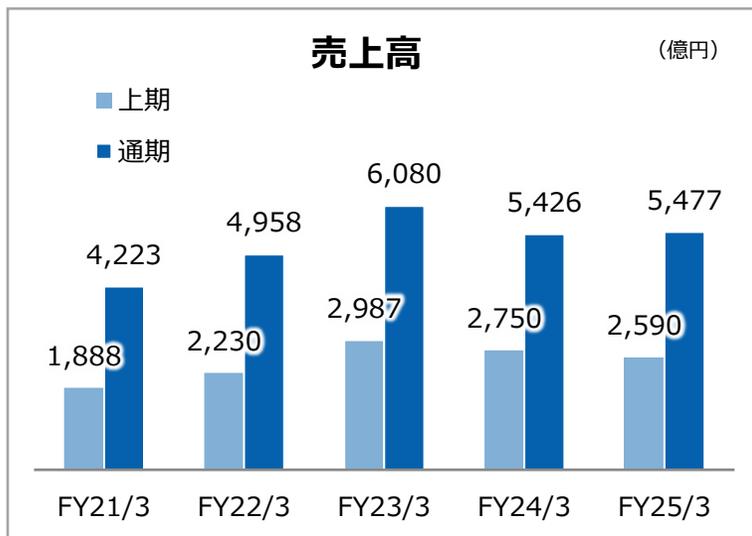
(注) 当社は、2024年10月1日を効力発生日として、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。年間配当金は、分割日以前についても当該株式分割の影響を考慮した金額を記載しております。

為替レート・為替感応度

	Q1実績		(参考) 1%変動による影響額		
	FY2025/3	FY2026/3	売上高	営業利益	FY2026/3前提
		(円)		(百万円)	(円)
米ドル	155.88	144.59	520	11	140.00
人民元	20.63	20.95	22	3	20.00
タイバーツ	4.25	4.36	104	6	4.50
香港ドル	19.94	18.52	56	1	19.00
ユーロ	167.88	163.80	41	0	160.00

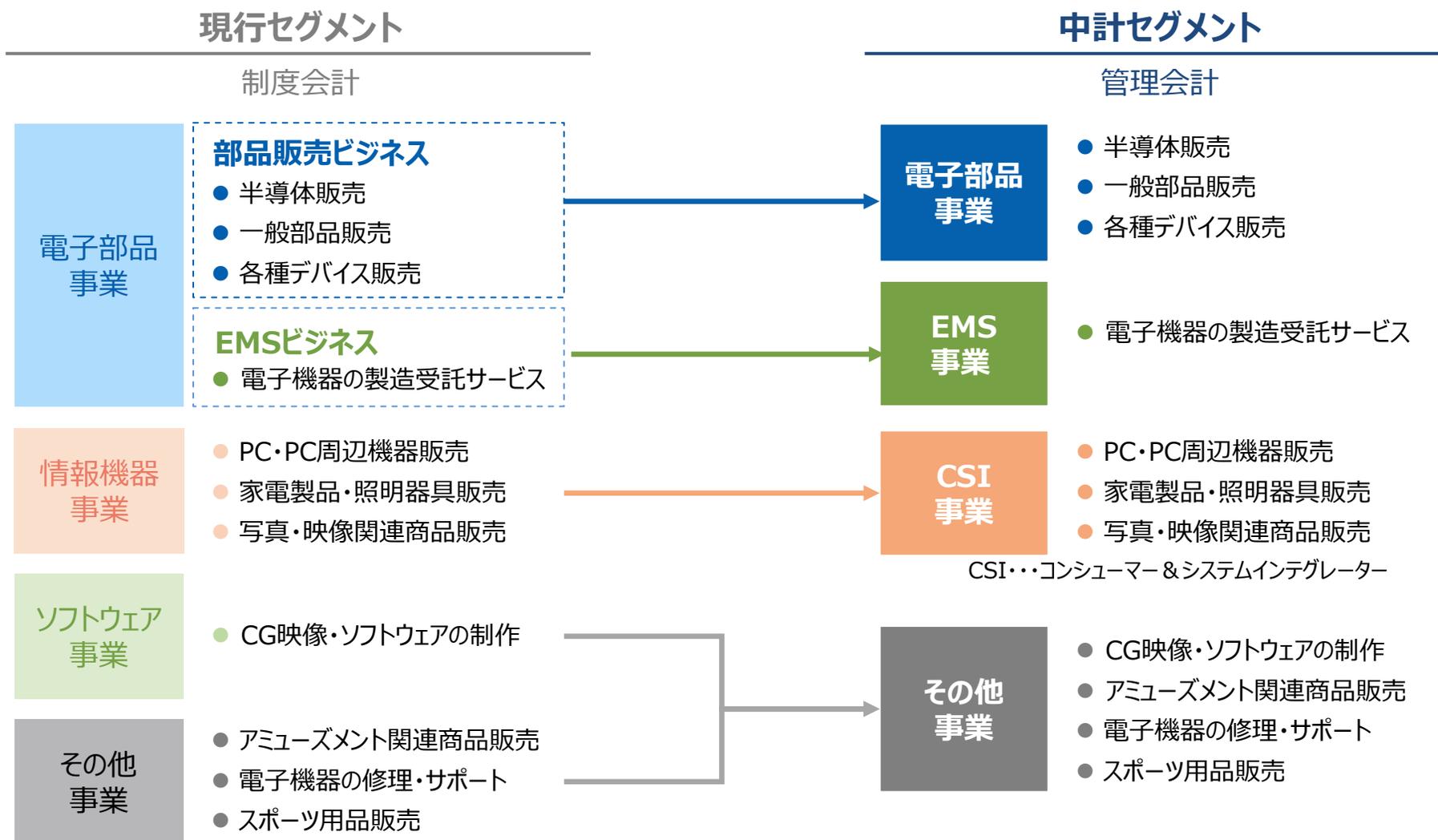
參考資料

直近5年の業績トレンド



(注) 当社は、2024年10月1日を効力発生日として、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。1株当たり純利益は、分割日以前についても当該株式分割の影響を考慮した金額を記載しております。

制度会計としての現行セグメントでの継続開示と併せ、中計に沿ったセグメントによる任意開示を行う



2026年3月期Q1 中計セグメント別業績

Q1実績（4-6月）

（単位：百万円）

		FY2025/3	利益率	FY2026/3	利益率	前年同期比
電子部品	売上高	80,696		81,847		1.4%
	セグメント利益	2,497	3.1%	2,267	2.8%	△9.2%
EMS	売上高	32,930		37,198		13.0%
	セグメント利益	2,069	6.3%	2,235	6.0%	8.0%
CSI	売上高	10,606		12,116		14.2%
	セグメント利益	639	6.0%	821	6.8%	28.5%
その他	売上高	4,404		6,923		57.2%
	セグメント利益	260	5.9%	1,132	16.4%	334.7%
合計	売上高	128,638		138,086		7.3%
	セグメント利益	5,550	4.3%	6,484	4.7%	16.8%

（注）セグメント利益は、各セグメントでは調整前の数値、合計は調整後の数値（営業利益）を記載しております。

その他IR情報のご案内

- IRサイト

<https://www.taxan.co.jp/jp/ir/>



- 統合レポート2024

https://www.taxan.co.jp/jp/ir/library/library_09.html



- 「IRメール配信サービス」へのご登録

<https://www.taxan.co.jp/jp/ir/irmail/index.html>



『すべてはお客様のために』



問合せ先：IR・広報部

〒101-8629 東京都千代田区神田松永町20番地

TEL:03-5657-0106

FAX:03-3254-7131

E-mail : webmaster@taxan.co.jp

<https://www.taxan.co.jp>

■ 将来見通しに係わる記述についての注意事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

■ 本説明資料における表示方法

数値：表示単位未満を切り捨て

比率：円単位で計算後、表示単位の一桁下位を四捨五入